

のアルバム

びわ湖と山を守ります

▼3月6日 大篠原里山

びわ湖の水源となる山にみどりを守り育てようと漁師と生産森林組合が協力し「漁民の森づくり・ふれあいの森づくり事業」としてコナラ 270 本の苗木を市内外から参加した約 200 人が植樹しました。

参加者は、汗をかき植樹を終えると漁師が作ったブラックバスのフライとカレーを食べ充実した1日を過ごしました。

この事業は、今回で10回目となり、毎年ご協力いただいている「緑の募金」を活用しています。



▼市民活動支援センターギャラリー



教育研究所展を開催！！

毎年、2月下旬から3月上旬の約1週間（今年は2月27日～3月2日開催）にかけて、1年間取り組んできた「教育に関する調査研究および教育関係職員の研修」の活動・成果等を中心に関係資料を展示し、市民の皆さんに周知を図っています。

今年は160人に参観して頂きましたが、その中で「野洲に住んでいて初めて"ここが北村季吟の故郷だったんだ！"と感激しました。」という貴重なお声をいただきました。

日頃の訓練が重要です

▼2月27日 野洲駅南口付近

春の火災予防運動の一環として、湖南広域消防局による「春季消防総合演習」が実施されました。

南海トラフを震源とする大地震が発生し、JR野洲駅南口付近一帯で高層建物火災や傷病者が多数発生した想定で、災害時の初動対応や避難行動の確認、消防と警察・医療機関・民間事業者・市・自治会や自主防災組織との協力体制の強化を図るため、避難・救助・消火活動など、総勢300人以上が参加しました。

地元自治会や自主防災組織からも100人以上が参加し、災害時にどのように行動すればよいか、非常持出袋や避難経路の確認など、改めて防災について考える日となりました。



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(139)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

ろうのう おおおか り え も ん 近江の老農 大岡利右衛門 ②

本市比留田出身の大岡利右衛門(1832~1912)は、農業指導者である「老農」として知られており、農事改良に生涯を捧げた人物です。この功績から、明治29年(1896)に緑綬褒章を受章しており、本年は受章120周年を迎えます。今回は、明治43年(1910)にまとめられた「大岡利右衛門事跡調査書」(以下、「事跡調査書」)から、彼の功績を紹介いたします。

「事跡調査書」は利右衛門の功績をまとめたもので、現在も大岡家で大切に伝えられています。彼の功績として、最初にあげられるのは、種子交換と選種の重要性を説いたことです。この研究には私費を投じ、40年の歳月をかけました。2点目の功績は、稲苗の正条植の奨励です。明治14~15年頃には野洲郡で正条植が広まったとされています。3点目は、共進会品評会の奨励です。共進会は、産業の振興を図るため、産物や製品を集めて展覧し、その優劣を品評する会で、この会の奨励により農産物の品質の向上につながりました。また、明治15年(1882)に創設された近江米同業組合の幹部委員として、米質の改良に指導奨励したことが称えられています。4点目に、稗種子の分与があげられます。当時の琵琶湖湖岸では、湖の水が溢れ出す洪水被害によって、農作物の収穫が不良となり食料困難が問題となっていました。利右衛門はこの惨状を想い、水に強い稗を取得し、研究の結果、水害に強い稗をつくりだしました。この稗は、湖岸の各村に分与され、栗太郡・愛知郡など、5郡97か村の1027戸に種子が分与されたとあります。明治18年(1885)に琵琶湖洪水が発生していますが、利右衛門の分与活動により、湖岸各村では稗の収穫を得ることができたことが「事跡調査書」で確認できます。

このように、大岡利右衛門は、農事改良に生涯を捧げた偉人であったことがわかります。博物館では、下記のとおり、テーマ展「近江の老農 大岡利右衛門」を開催していますので、ぜひご観覧ください。(博物館学芸員 齊藤慶一)

■テーマ展「近江の老農 大岡利右衛門」

開催中~5月29日(日)まで

〔休館日：月曜日・5月6日(金)、野洲市民は入館無料〕



【初公開】
大岡利右衛門
事跡調査書
(大岡家蔵)



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた栢木千代さん(小堤)を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年3月4日生まれの千代さんは、趣味で千羽鶴を折って友だちにあげたり、神社やお寺に供えています。

親戚の人やデイサービスの皆さんにお祝いしていただき、「幸せです。ありがとうございます。」と感謝されていました。いつまでもお元気で。

▼3月9日 小堤



将来の担い手育成に活用

滋賀県建設業協会湖南支部および湖南環境建設事業協同組合から防災減災対策にと「まちづくり寄附金」をいただきました。

市では、中学校のクラブ活動を通じて消防・防災を学習し、家庭や地域の防火・防災意識を高め、将来の地域防災の担い手の人材育成を推進していきます。

寄附金は、中学生消防クラブのヘルメットや装備品の費用として活用させていただきます。

▼3月1日 市役所

